



TV Interview  
ホスピタル インタビュー

服部栄養専門学校校長

## 服部 幸應

Yukio Hattori

### 「本当に参っていた時、ふらりと寄った本屋で、目に止まったのが……」

グルメブームを牽引した「料理の鉄人」など、料理番組ではすっかりお馴染みの顔である服部幸應さん。日本で最も著名な料理評論家であり、プロの調理師・栄養士を育てる学校法人服部学園のトップ、そして食育基本法を成立させた人物でもある。料理評論家、教育者、経営者……様々な顔を持つ服部さんに、弱冠32歳で学校を引き継ぎ、大きな試練を経験したことについてお話をうかがった。

— 服部学園をお母様から引き継いだのは、まだ30代でしたか……  
創立者である父の跡を継いだ母が、私が2歳の時に亡くなりました。それで私がやることになったのですが、当時、日本全国の学校法人の中で最も若かったんです。それで古株の理事たちはそんな若造には任せられないと……。

— ご苦労が多かったのでは？  
最初は校長になったんですが、法人としてのトップは理事長で、お金も人も自由にならない立場です。で、母が亡くなった時に相続した借入が、30年

以上前の3億円。母は法人のトップという信用があったから借りられていたわけです。それを校長だけの私が引き継ぐとなると、個人ではそんなに貸さないということになります。相続放棄という選択もありましたが意地になって……。不動産を処分しようにも、立ち退きにお金がかかった挙句、なかなか売れない。以前は親切にしてくれた債権者が取り立てにきたこともあります。そうなるとうまく逆風。こんな奴には理事長をやらせれないと。本来は理事長職に就かせなかつたらそうならなかったわけですが、負の連鎖ですよ。

— 抜け出すきっかけは？

— 本当に参っていた時、ふらりと寄った本屋で、目に止まったのが、伊藤肇さんの『現代の帝王学』。いろいろな経営者がどうやって困難を乗り越えてきたかという内容なんです。当時の私が抱えていた問題が全て書かれています。まるで乾いた砂に水を撒いたかのように、すらすらと入ってきて、3時間くらいで完読。30回くらいは繰り返し読んで、すっかりまる覚え。水は高いほうから低いほうへ流れるなんて書いてあります。そんな原理原則について書いてあります。当分前のごときなんです。すが追い詰められて迷いが出ると、そんなことすらわかなくなると、途方に暮れてしまうわけです。他にはイエスマンではなくアドバイスしてくれる存在を持ってとか、自分の生き方や

経営方針にきちんと反対の意見を述べてくれる存在を持ってとか……。

— 困難は乗り切れましたか？

— 借入の返済はまだ少し残っていますが、順調に進んでいます。学校の中で10年ほど厳しい時期はありましたが、こうして理事長として頑張っていることもあって、この仕事が好きだというところもあるんですよ。この35年ほどは1日4〜5時間しか寝ていないし、休みは29日しかとっていません。

— TV出演も多いですね。

— 学校の中で苦しい立場の頃は、あれこれと攻撃されるわけです。それから名前を売って、服部幸應＝服部学園の顔になってしまえば、もう誰も動かしようがないわけです。実際、知名度に比例して、雑音が少なくなってきました。多い時はギャラ一番組が週に9本。またレストラン業界からスーパースターが生まれば注目されます。人が集まれば、相乗効果が活気が出てくるんです。

— 入院患者の皆さんにメッセージをお願いします。

— 食事が出るだけいい環境でしていただくと思います。蛍光灯より白熱灯の下で食べたほうが、疲労回復が早いという調査結果があります。いい環境で食べて、免疫力をアップさせるよう心がけてください。